

ドライ マウス 通信 vol. 18

2010

CONTENTS

特集

『患者友の会』『研究会』
相互連携から生まれる可能性を探る

ご案内

ドライマウス講習会・ドライマウスセミナー2010

インフォメーション

メディア情報 他

特集

『ドライマウス患者友の会』に見る ドライマウス診療のヒント

ドライマウスに悩む方々が、生活の中で何を思い、
どうすごしているのかを知ることも、診療の大きなヒントになります。
しかし、日々の診療で、受診者ひとりひとりと
接する時間は決して長いとは言えません。
そこで今号では、ドライマウス患者友の会を特集。
去る2009年9月19日に開催されたこの会のアンケート、
そしてご意見を通じて、医療従事者を対象としている
ドライマウス研究会と、この会の連携の重要性を検証します。
同じ病を持つ者同士が思いを分かち合い励まし合うことが生み出す
治療への良い影響、そして、講演から得た知識の中から発信された
新たな提案にもご注目ください。
これまでもドライマウス研究会で取り組んできた、
受診者とその検診に携わる医師とのネットワークづくりの重要性が、
受診者ならではの視点の中から見えてきます。

ドライマウス患者友の会

2002年設立。会員数約700名(2009年12月現在)。年1回のドライマウス患者友の会を通じて、ドライマウスに悩む方々に、ドライマウスの基礎知識や日々の対処法のアドバイス等を行っています。入会金、年会費無料。ご入会をご希望の方は、下記ドライマウス研究会ホームページ内、友の会コーナーをご覧ください。

<http://www.drymouth-society.com/>

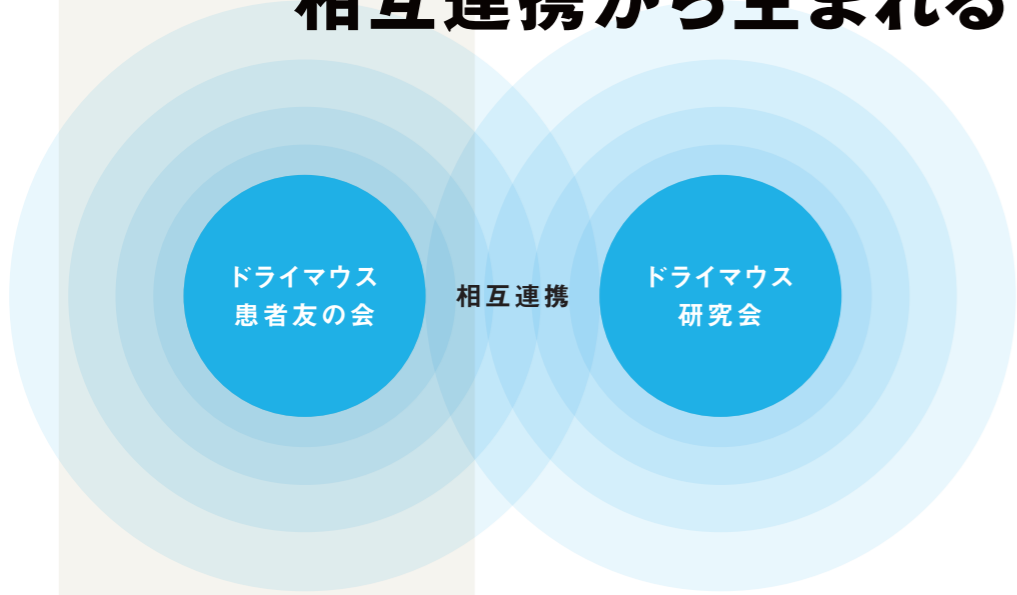
ドライ マウス とは？

口腔乾燥症。ここ数年、中高年の女性を中心に患者数が急増しています。ある広告代理店が実施した2万人を対象とした調査※によると、49%が症状を自覚しており、これは人口の約4,200万人に相当します。QOL(生活の質)の著しい低下だけでなく、放置しておくさまざまな感染症の引き金にもなります。ストレス、薬剤の副作用、シェーグレン症候群、筋力低下など、さまざまな原因からもたらされ、そのいくつかが重なって発症するケースも多々あります。 ※20～60代男女を対象に、2007年5月実施。

受診者とその検診に携わる医師とのネットワークづくり

『ドライマウス患者友の会』 『ドライマウス研究会』

相互連携から生まれる可能性を探る



第7回ドライマウス患者友の会が開催されました。

去る2009年9月19日(土)、鶴見大学会館(横浜市鶴見区)にて開催された、第7回ドライマウス患者友の会。今回も、全国各地からドライマウスに悩む多くの方々にお集まりいただきました。

ドライマウス患者友の会は、2002年、ドライマウス研究会と時を同じくして、ドライマウスに悩む方々にドライマウスの基礎知識と日々の生活の中で実践できる対処法をご紹介すること、そして、ドライマウスに悩む方同士の交流の場としてご活用いただきたいという思いから設立されました。今回も、活発な意見交換が交わされ、閉会後のアンケートにもたくさんのご意見が寄せられています。「このような会合を開くことは、ボランティア精神がなくてはできないこと。感謝の気持ちで一杯です」といったコメントと共に、これからのドライマウス診療の参考になる貴重なご意見も多く見られました。受診者の思いを医療従事者である私たちが知ること。そして、受診者が私たちの取り組みを知ること。その相互連携・理解こそが、ドライマウス診療でより良い結果を生み出す基礎となります。

「余計な薬はなるべく飲まない。よく解りました」
「病は気からの部分もあることがわかりました」
「今まで知らなかったことを知ることができ、症状がよくなったわけではありませんが何かとても安心感を覚えました」

■講演では、vol.17取り上げた「ストレス性ドライマウス」、vol.16で取り上げた「薬剤性ドライマウス」についても紹介があり、受診者の方々にも浸透しつつあるようです。今後の診療でもぜひご活用ください。

「お話を伺えて、励みになりました」
「ドライマウスに悩む方がこんなにいらっしゃるのかと思い、少し楽になりました」
「友の会の支部をつくってください」

■同じ悩みを持つ方との交流は、治療をあきらめず受け、改善に繋げていくための大きなカギとなります。各地の認定医・指導士の皆様による「友の会支部」の設立も、当研究会は積極的に支援していきます。

「たまたま友人がこの会を教えたので貴重なお話を伺えましたが、病院等にも友の会の紹介ポスター等を貼っていただければありがたいと思いました」

■初めてご参加いただいた方からのご意見です。友の会の存在を知らず、ひとり思い悩む受診者の方も多くいらっしゃいます。今後、友の会の告知方法も新たに検討していきたいと思っております。

外見で判断できない疾患だからこそ検討されつつある『ドライマウス証明書』。

そして、今回のドライマウス患者友の会から、新たな動きも検討されつつあります。

前号でもご紹介した通り、美術館などの公共施設では飲食制限が設けられている場合が多く、ペットボトルが手放せないドライマウスの方々はどうしても足が遠のいてしまうのが現状です。また、口腔乾燥感の緩和に多くの方々利用しているガムも、一般的に仕事や式典といった比較的フォーマルな場所での使用が良しとされない風潮があるため、我慢をするしかないという声も多く聞かれます。

こうした友の会会員の声のひとつとして挙げたのが、「提示をすることでドライマウスであることをわかってもらえるマークや証明書があれば…」というご意見です。

これは、ドライマウスに悩む方であれば、誰もが一度は感じたことがある思いなのではないでしょうか。疾患自体の認知度がまだまだ低いドライマウスは、外見ですぐに判断できる疾患ではないことが、社会的に認知されない理由かもしれません。現在広く普及している『マタニティマーク』も外見からは判別しづらい妊娠初期の妊産婦に対する理解を得ることを主眼としており、このようなマークやカードの発行が実現すれば、ドライマウスに悩む方々にとって大きなメリットになることは間違いありません。

しかし、現状ではまだまだ多くの壁があり、実現にはドライマウス研究会会員の皆様のご協力・ご理解が欠かせないものとなります。ドライマウス研究会では、ドライマウス患者友の会とのコラボレーションとして検討されているこの企画の実現を目指し、さらなる検討を続けていきます。

登録情報の確認に、ご協力ありがとうございました。

ドライマウス研究会ホームページの認定医師・診療所リストがリニューアルしました。

ドライマウス通信Vol.17等で、医師・医療従事者・関連企業の皆様にお願いをいたしました登録情報の確認に、ご協力ありがとうございました。いただいた情報を元に、このたびドライマウス研究会ホームページ内の認定歯科医師・診療所リストがリニューアルいたしました。医師名・診療所名・住所・電話番号といったこれまでの情報に加え、新たに認定医証・指導士証の取得・更新を明示。

また、掲載を歯科医師以外の医師やその他医療従事者にまで拡大するなど、より有益な情報をお届けできるようになりました。新たな医師・診療所の掲載もございます。受診者の皆様は、お近くの認定医・診療所をお探しの際に、ぜひお役立てください。

ドライマウス研究会ホームページ
<http://www.drymouth-society.com/>

講

ドライマウス講習会

2010

■ 4/11(日) ■ 第17回 ドライマウス講習会

■ 会場：KDDIホール ■

■ 11/14(日) ■ 第18回 ドライマウス講習会

■ 会場：KDDIホール ■

■ 7/4(日) ■ ドライマウスセミナー2010

ご好評にお応えして今年も開催決定!

■ 会場：鶴見大学会館
メインホール
(横浜市) ■

会員の皆様には、申込時期になりましたら詳細を別途ご案内いたします。日程、会場は変更となる場合がございます。詳しくは下記ドライマウス研究会ホームページでご確認いただくか、下記講習会事務局までお問合せください。上記講習会・セミナー等は、すべて日歯生涯研修事業に該当します。

参加のお申込・お問合せは、下記までお気軽にどうぞ。

ドライマウス研究会ホームページ <http://www.drymouth-society.com>

ドライマウス研究会事務局 ☎03-3869-4158 ☎03-3869-6748 ✉seminar@drymouth-society.com

ドライマウス研究会 Information

メディアに紹介されました

- テレビ朝日系列 スーパーモーニング
2009年11月26日O.A.
「スパモニ家庭の医学 ドライマウス」
- 日経ヘルス プルミエ2月号
2009年12月20日発行
「不快なドライアイ&ドライマウスと
上手に付き合う ドライマウス」
- クロワッサン特別編集
2009年10月15日発行
「『老化』は口の中にも。気がかりな
ドライマウス、自分でできるケア法は？」

医療従事者向け 抗加齢歯科医学研究会主催 講習会のご案内

- 第10回 抗加齢歯科医学研究会主催 講習会 2010年7月18日(日) 会場:サンケイホール
- 「骨代謝 骨・血管老化の病態」
東京慈恵会医科大学整形外科科学講座
斎藤 充 先生
- 「再生医療とアンチエイジング」
鶴見大学歯学部口腔外科学第二(口腔内科学)講座
里村一人 先生
- 「アンチエイジングクリニックの実際」
三番町ごきげんクリニック
澤登雅一 先生
- 「症状別サプリメントと最も多い患者様からの質問」
株式会社ヘルシーバス
田村忠司 氏
- 「重金属汚染を真剣に考える」
慶應義塾大学医学部眼科学教室
坪田一男 先生
- 「ビスフォスフォネート系薬剤と歯科治療」
九州大学大学院歯学研究科口腔顎顔面病態学講座
顎顔面腫瘍制御学分野
中村誠司 先生
- 「アンチエイジング医学の最前線」
抗加齢歯科医学研究会 代表
斎藤一郎 先生

※プログラムは変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。
抗加齢歯科医学研究会は、日本抗加齢医学会の分科会として活動しております。
医科・歯科の垣根を超えた幅広い知識の習得を目指す講習会にご興味のある方は、下記までお問い合わせください。
ホームページ <http://www.anti-aging-dental.com/> ☎ 03-3869-4158 ✉ info@anti-aging-dental.com